## 洋野町大野地区。 物語をお届けしよう。 大野に生まれ、大野を愛し、大野のために奮闘する夫婦の 「きこりんふぁーむ」の間澤美治さんと智子さんだ。 林業や酪農をなりわいとするこの地区で、行者にんにくを 美しい高原が広がり、日本一の星空が輝くという岩手県 栽培している夫婦がいる。 岩手県 智子さん。美治さんを囲む撮影に、ご家族の他、二人を応援する町内の関係者が動せをしてくれた。 演色に富物姿は地元出身の裏改歌手・二本木智子さん。その両隣は西大野商店の長女・布施香さんご夫妻、果いスーツ姿は四本正備町長。 白い作業第変はおおのミルク工房、塩倉康美社長。 広大なバークゴルブ場と牧車地が広がる「おおのキャンパス」にて、



あげる父でした」。

そんな父親の遺伝子を受け継いだ

も嫌な顔もせず、熱心に相談に乗って ような人。夕飯時に誰かが訪ねて来て ですけど、名は体を表す、を地で行く してくれた。「名前は助人って言うん を見せながら生家の父親について話 間澤智子さん(62)は、お手製の家系図 ました」。先祖代々の遺影が並ぶ仏間。 を持って相談に来ることがよくあり やき。そのせいか、部落の人が一升瓶 父はとても面倒見のいい人で、お節介



旧家の4 代目に嫁ぐ

太郎さん(34)は笑う。

でもあるんですけどね」と、長男の慎 を優先する。そこが尊敬できるところ 「どっちも自分のことより他人のこと 夫の美治さん(64)も相当なお人好し。 かのために動き回ってばかりいるが、 き」だ。自分のことはそっちのけで、誰 のか、智子さんもかなりの「お節介や

併し、洋野町になった。年間平均気温 まで村であったが、同年に種市町と合

ここ洋野町大野地区は、2006年

発生し、低温と日照不足が続くため、 や木工など村民一人ひとりが郷土づ かし、「一人一芸の村」を標榜し、酪農 農業が簡単にできる土地ではない。 む「やませ(北東風)」の影響で濃霧が は10・6℃。夏には太平洋から吹き込 くりに関わってきた地域だ。 L

抱える本家でもあった。 で暮らす大家族であり、多くの分家を 婚。美治さんは旧家である間澤家の14 治さんと智子さんは、1984年に結 そんな大野地区で生まれ育った美 5人兄弟で、両親、祖母と8人

「叔母たちには、大変だからやめな

義母と義祖母の介護が、智子さんの肩 従業員の世話や家事全般、寝たきりの 米を栽培する複合経営。家業を手伝う

ちゃったんですよね」と、智子さん。 らずだったから (笑)。勢いで結婚し さいと言われましたけど、怖いもの知 当時の間澤家は林業の他に、椎茸と

行者にんにく畑を守る、間澤家の愛犬ピック

美治さんは毎日森に入り営林作業を行う

に出る余裕などなかったという。 平さんと、3人の子育ても加わり、 子さん、長男の慎太郎さん、次男の良 にのしかかった。さらには長女の奈生 外

たんでしょうね」と振り返る。 時、智子さんは坐骨神経痛を発症。歩 いろ無理が重なって、体が悲鳴をあげ くこともままならなくなった。「いろ そんな無理がたたったのか、50歳の

は、その仕事も一手に引き受けた。 を手伝い、母親が若くして倒れてから ら働いてたよ」。小学生の頃から家業 厳しくてね。心が折れそうになりなが 仕事でも家のことでも、親父はオレに 回されてきた。「長男だからなのかな。 長年、頑固で厳しい父親の言動に振り 美治さんも家業の仕事が忙しい上、

## シドケが食べたいどんぶりいっぱい

「趣味」と言えるのが、山菜栽培だ。 いてしまう根っからの仕事人間。唯一 美治さんに至っては、暇があっても働 には、遊ぶ余裕がほとんどなかった。 結婚してから働き詰めの間澤夫妻

05 | 東北食べる通信

「実家は酪農を営んでいましたが、